時事新報

特選廣告取扱所
東京圖書館

明治十八年四月十四日
（西暦一千八百八十五年）
火曜日
第九百四十二號
日曜日休刊

公報

○農商務省達第十五號　府縣

明治十七年（十二月）第三十號布告西洋形船舶檢査規則制定相成候ニ付テハ同規則第二十一條ニ依リ船舶檢査施行手續及ヒ船舶檢査細則別冊ノ通相定メ本年七月一日ヨリ施行ス

但明治十三年（十一月）内務省乙第四十五號達ハ本文月日ヨリ廢止ス

右相達候事

明治十八年四月十三日　農商務卿伯爵松方正義

○農商務省達第十六號　府縣

今般第十五號ヲ以テ船舶檢査施行手續及船舶檢査細則相達候ニ付テハ不登簿船檢査報告書ハ地方廳ニ於テ取纏毎三箇月當省ヘ送附スヘシ

右相達候事

明治十八年四月十三日　農商務卿伯爵松方正義

○農商務省達第十七號　府縣

明治十六年（十二月）當省第十七號達ニ據リ開設候勤業會ノ儀ハ重要ノ件ニ付可成的繰合該課長可差出此旨更ニ相達候事

但課長差閊ノ節ハ平常課長代理ノ者差出可申事

明治十八年四月十三日　農商務卿伯爵松方正義

賞勲敍任

○明治十八年四月七日

敍勲三等賜旭日中綬章　陸軍大佐兼陸軍省四等出仕從五位勳四等　永山武四郎

敍勲四等賜旭日小綬章　陸軍大尉兼陸軍省七等出仕正七位勳五等　篠森泰度

敍勲五等賜雙光旭日章　陸軍大尉兼陸軍省七等出仕正七位勳六等　荒城重雄

○明治十八年四月十一日

任内務權大書記官　參事院議官補兼太政官少書記官從六位　久保田貫一

時事報報

英國ト魯國

英魯兩國ノ關係ハ近來漸ク切迫ノ有樣ニ推移リ兩國ノ人心モ甚タ穏カナラザル折柄近日ノ報道ニ依レハ英國政府ハ本國ノ諸軍艦ニ解纜準備ノ命令ヲ下シタリト云ヒ濠洲殖民地政府ニテモ大ニ戒嚴スル所アリト云ヒ印度ニテハ大兵チベるちすたんノくえうたニ屯集セシメタリト云ヒ香港大守ハ守衛兵ノ派遣ヲ本國政府ニ請求シタリト云フニ魯西亞ノ方ニテモ五萬ノ兵ヲ裏海ノ要港ばくニ繰出スト云ヒ裏海ヨリとるきすたん地方ヲ指シテ魯軍ハ續々進行スト云フニ倫敦ヨリノ最近報ニテモ英魯兩國政府ノ戰備ハ今日マタ少シモ懈怠ナク樹々居レリトアルナド兩國ノ和親ハ今ニモ破裂シテ戰場ニ相見ントスルノ勢アルカ如ク然リ扨英魯ノ兩國カ何故斯ク不和ナルヤト其原因ヲ尋ルニ蓋シ魯西亞ハ他國ヲ侵略スルヲチ主義トシ内國人民ノ文明ハ歐洲ノ最下等ニ位シテ其進歩ノ遲々タルヲモ憂ヘズ一寸ニテモ一尺ニテモ唯其領地ヲ廣クスレハ名君賢宰相ナリト尊重スルノ風ナルカ故ニ土耳古ニ中央亞細亞ニ支那ニ日本ニ衝クモ境土ヲ接シテ雲ノ乘スヘキモノアル場所ニハ必ズ其臂ヲ伸ヘテ掠奪ヲ試ミザルコトナシ殊ニ中央亞細亞地方ハ當代文明ノ風ノ未タ吹キ到ラザル所ニシテ魯國ノ侵略策ヲ施スニハ最モ便利ナル土地ナルカ故ニ魯人ハ比年其慣手ノ權策ヲ運用シテ嚥呑ヲ恣ニスルモ餅隊ノ地方幸ニシテ世人ノ注目ヲ免カレタリシカ昨年遂ニとるきすたんノ全土ヲ蠶食シ盡シテ更ニ其南隣あふがぬすたんノ方ニ及ボサントスルニ至リテ漸ク世人ノ注意ヲ惹キ中ニ就キ英國人ハ其秘藏ノ囲國印度ノ西北境ト魯國ノ新領トハ中間僅カニ三四百英里ノ蕃地ヲ餘スノミトノ事實ヲ見テ其驚愕一方ナラズあふがにすたんハ我囲國ノ藩籬ナリ魯人ヲシテ此上更ニ一歩ヲモ進マシムベカラズトテ魯國政府ニ照會シテ先ツ魯領トあふがにすたん領トノ境界ヲ定メントスル折柄魯人ハ委細顧着ナシニ南ニ侵シ入ルヨリ英國ニテモ最早此上ハ兵力ニ訴ヘテ魯人ノ貪慾ヲ制スベキトノ決意ヲ示シ露國モ亦英國ノ多事ヲ胸中ニ算シ埃及事件ヲ片手ニ其又片手ノ仕事ニ大魯西亞帝國ヲ相手取ラント欲シテ面白シトテ其挑ミニ應スルノ氣振リヲ示シ大兵ヲ裏海ニ繰出シテすとト云ヘバ胡馬一鞭いんぢゆす河ヲ躍リ越エテ北部印度ヲ蹂躙センアト身構ヘシタリト是即チ英魯葛藤ノ次第ニシテ其歸ハ兩國孰レニ在ルヤヲ問フニ及ハズ唯亞細亞地方占領ノ配分論ナリトス合點シテ不可ナカルベシ

此葛藤ニシテ彌ヨ其頂巔ニ達シ遂ニ英魯兩國ノ戰爭ニ及バンカ其戰爭ノ場所ハ決シテあふがにすたんノ荒野ニ限ルベカラズ日本ノ近海亦其戰場タルニ不都合ナカルベシ近頃英國カ朝鮮ノ南海岸ニ在ル巨文島（我對馬又ハ五嶋ヲ距ル日本陸路ニシテ四十里計リ）ニ其國旗ヲ靡ヘシタリトノ風說アルカ如キハ既ニ已ニ其兆候アルモノヽ如シ英領ノ香港ヨリ魯領ノ浦盬須德港ニ往來スルニ對馬海峽ハ必由ノ門戸ナリ若シ萬一ニシテ開戰布告ノ後英國艦隊ニシテ浦盬港ヲ砲擊封鎖スルコトアリ或ハ魯國軍艦ニシテ敵ノ目ヲ忍ビ投ケ驅ケシテ一彈ヲ放ダント試ル抔ノコトアランカ日本海ハ兩軍進退ノ大道ニ當リ各國ノ港津ハ日夜砲聲ヲ聞キ硝烟ヲ望ミテ安堵スルノ暇ナカルベシ目下日本ハ佛清ノ曖昧戰爭スラ尚ホ且ツ局外中立ノ要香ナドヽテ時多ノ困難アリ況ンヤ英魯兩雄交戰ノ日ニ於テヤ我輩ハ左ナキダニ多事極マル今ノ東洋極東都ニ更ニ又英魯兩國ノ紛爭アルヲ願ハザルハ勿論今ノ英國ト今ノ魯國トノ實勢ヲ比較スルニ魯ハ到底英ノ敵ニアラズ英ニシテ彌ヨ魯ヲ敵トスルノ決心ヲ示サンカ魯ハ必ズ一歩ヲ讓リテ維持スルニ相違ナカラント思ハル、程ノ事ナレハ戰爭ニ至ラズシテ事鎮着スベシト信スルモノ、真々一ノ境合ヲ盧リ英魯兩雄交戰ノ日ヲ豫想スレハ轉タ不安ノ思ニ堪エザルナリ

雜報

○小松宮　前號ニ記せし如く此度福岡縣下にて執行する大演習へ　御名代として差遣はさるゝ小松近衛都督宮には本日午前八時仮皇居を發せられ新橋より別仕立の汽車にて横濱に着せられ同港より山城丸にて御出發の筈なりと右に付杉宮内二等出仕山口宮内大書記官藤波岡田の兩侍從は同宮に隨行仰付られ其他醫員一名庶務課屬二名内匠課屬一名雜掌二名御厩課屬一名叙者一名内藏寮屬二名も同宮に隨行を命せられたるよし

○領事謁見　布哇國在留領事中村次郎氏が同國皇帝へ謁見せし概況左の如し

去る二月十日外務卿ワルダー　ニム　キブソン氏の通知ヨリ領事中村次郎氏は翌十一日正午十二時皇内御車寄の前面に於て下車す此の時本門より同所迄各省に護衛兵一名列ゝ直立し通過の時と俟ちて捧銃の敬禮を行ふ御車寄の石階には宮内大輔エドワルド　ダブリユバーピス氏出迎進みて玄關に至る扉の右側ヨリ外務卿ギブソン氏出迎ひ握手の禮を行ひ直に謁見所に誘引す暫時ヨリして皇帝出御の旨大輔より外務卿を經て報知あり偖て皇帝出御外務卿領事の名を披露ありしと以て直ヨリ敬禮を皇帝御會釋あり次に領事は御用掛中山嘉吉郎氏の名を披露し齊しく敬禮す右終りて皇帝より領事の席ヨリ近付き椅子に寄り領事にも着席すへき旨の勅語あり此の時外務卿等齊しく椅子に凭りしが皇帝より暫く懇話あり右畢りて一同退出したり

○諸兵召集　今般廣島鎮本兩鎮臺諸兵實地大演習のため德島縣下に於て臨時召集せる諸兵と明治十六、十七兩年繰備兵四百八十七人現役輜重輜卒七十五人師休兵五十五人にして合計六百十七人なりと

○東京府區部會　去十一日午後四時十分開會議長（芳賀）書記（長谷）議案第一號　築造修繕費第三次會と開き異議無く確定す可しと決し次に區廳舍建築修繕費第三次會と開き芝牛込區役所建築費の削除に對し議外一番（銀林）は猶取調べしに事務取扱上實に差支るに付能く熟考ありしと述べ五十番（志摩）三十六番（渡部）の修正の上建築す可しと述べ四十番（沼間）は從來府廳は些細の事と口實とし議案を提出せざるれと實例に照し決して此議案と信用し難ひのみならず今日の建築の必要無しと述へ番外一番（銀林）と數回の討論あり六番（藤田）十六番（高梨）も建築の不可なるを辯し終に五十番（志摩）等れ建築說消滅し餘い異議無く此案を以て確定す可しと決し五時五十分休憩六時三十分開會　救育費第三次會を開き四十番（沼間）此費兒費は大ヨ減額す可き者あり昨年常議委員會ヨ於て養育院に退込む可しと申せしが理事者は考案中との事に付修正せずして已みしに今猶依然として提出せり若し當時の方法の如くならんか或は一旦已の子と棄て二圓の養育料と受け更に之と引取る者あるに至る可し其他之に附隨する費に多し故ヨ滿四年以上の者ハ必ず養育院に入院せしむる事と爲す可し若し養育院の經濟立たずと云はゝ夫ハ又別に其案を立つべしと述べ終に四十番の修正說に決し猶此案に確定を可しと決し次に區部備荒儲蓄金幷瓦斯燈費第三次會と開況れも異議無く確定ヨ決し是より區部地方稅收入條例議案第一次會を開き第二次會と開くに決し直に同議案の内營業稅雜種稅課目條例議案第二次會を開き營業稅の内商業、工業、雜種稅の内料理屋、待合茶屋、遊船宿、芝居茶屋、飲食店等數項い異れも原案方法ヨ倣り得る所の議說若ヨ付一條五厘との一條と延期し餘は總て原案に決し散會

○英國の十傑　歐洲代議士の一人ヨ當リ英國のベル　メルバ紙ヨ掲載せし英國の十傑の姓名を左に掲ぐ

英國當時の十傑

政事家	サリスベリ
新聞記者	ジヨーバ
著述家	ジエーバ
博士	ウオルス
學者	ハツ
著述家	ヒヨン
小說家	ウサル
說教師	カノン
俳優	ヘンリー
編纂家	ゼイク

○休息所建築　陸軍教導團の休息所に充つべき節の休息所建築なすよし

○看病夫試驗　海軍省にて看病夫試驗の原へ建築なすよし

○幼稚園　千葉縣千葉町の幼稚園開設する見込にて目下有るが爲め約定濟の多き者は三百七十八名なるが問題いふ

○茶賣捌會社創設の事は其筋へ新茶若干斤送致すべし

○茶業者集會　豪て本紙去る九日より株主一同が茶賣捌會社創設の事の實行方法を評議中なり

○京都電　西京府下にて多きにも拘らず其實現港師は却て手間代ヨなるなら會社長實田新造氏が太く敎はんと欲し先づ同業組固にし然る後ち其方法と云ふ

○備荒積蓄規約　兵庫縣は人民篤實にして上今度備荒は可を得て實施する事ヨなし